

令和4年【第1回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

岩手県の沿岸12市町村に居住又は就労している方 153名
※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法（郵送による発送、返信用封筒による返送）

(3) 調査対象時期

令和4年1月（次回調査は令和4年7月予定）

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感（被災者の生活の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況）

問2 地域経済の回復に対する実感（地域経済の回復度及び直近6ヶ月間の進捗状況）

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

（災害に強い安全なまちづくりの達成度及び直近6ヶ月間の進捗状況）

(5) 回収結果

有効回収率 79.7%（122名／153名） < 前回 82.4%（令和3年7月調査） >

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	85	69.7%
女性	37	30.3%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	39	32.0%
沿岸南部	83	68.0%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	4	3.3%
40歳代	27	22.1%
50歳代	52	42.6%
60歳以上	39	32.0%
不明	0	0.0%

④住宅被害の有無

被災有無別	人数	割合
被災あり	66	54.1%
被災なし	54	44.3%
不明	2	1.6%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連（応急仮設住宅の自治会（入居当時）、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など 49名（40.2%）
- ・ 教育・福祉施設関連（小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など） 32名（26.2%）
- ・ 産業・経済・雇用関連（漁業・農業従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者など） 41名（33.6%）

■参考■

○「回復度」「達成度」とは、発災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。

「進捗状況」とは、直近6ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。

○沿岸北部とは、洋野町・久慈市・野田村・普代村・田野畑村・岩泉町の6市町村、
沿岸南部とは、宮古市・山田町・大槌町・釜石市・大船渡市・陸前高田市の6市町です。

※ 調査結果の集計・分析にあたっては、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

※ 掲載する割合(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」が52.5%と、前回(51.6%)を0.9ポイント上回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計も86.1%と、前回(85.7%)を0.4ポイント上回った。

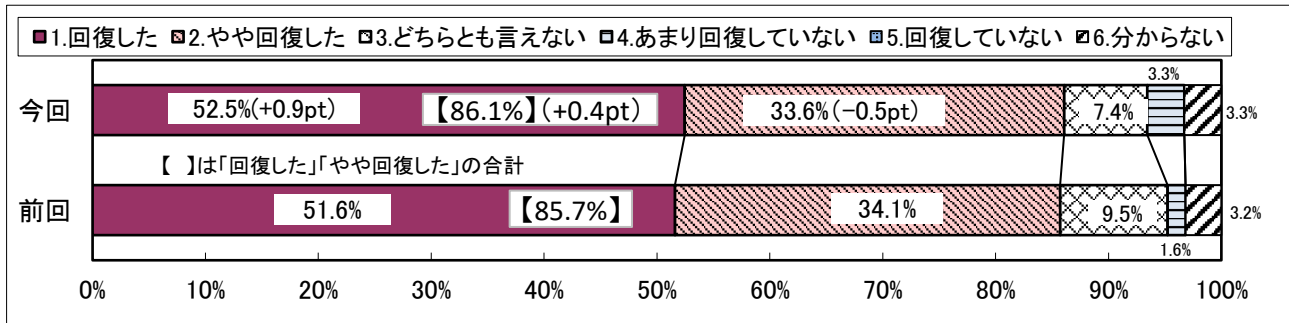
○地域別では、「回復した」が沿岸北部で48.7%と前回(52.5%)を下回り、沿岸南部では54.2%と前回(51.2%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部では89.7%と前回(87.5%)を上回った一方、沿岸南部で84.3%と前回(84.9%)を下回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は5.4ポイントと、前回(2.6ポイント)から拡大した。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」が41.4%と、前回(30.2%)を11.2ポイント上回った。一方、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計は60.4%と前回(63.5%)を3.1ポイント下回った。

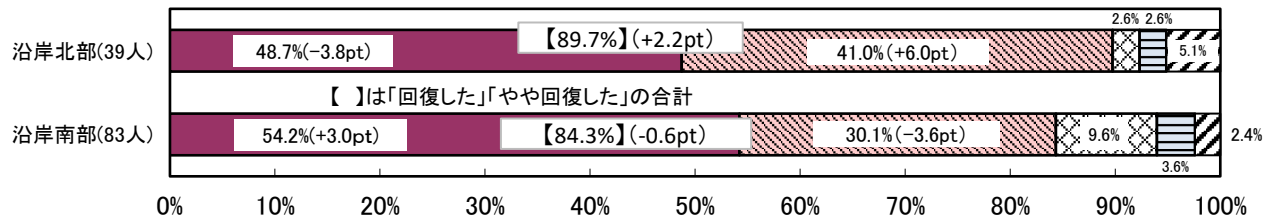
復興道路等の全線開通や住宅の高台移転、災害公営住宅への移行など生活基盤の整備が概ね完了したことを評価する一方で、被災跡地等の空き地の多さや地域の人口減少、被災者に対する継続的な心のケアの重要性を指摘する声があった。また、新型コロナウイルス感染症の影響により地域のコミュニティ再生のための集いが不足しているとの声があった。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

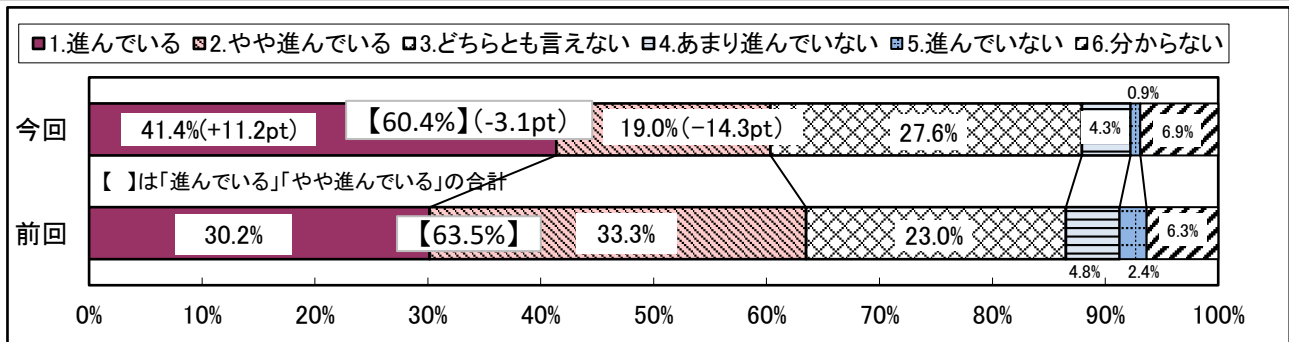


地域別

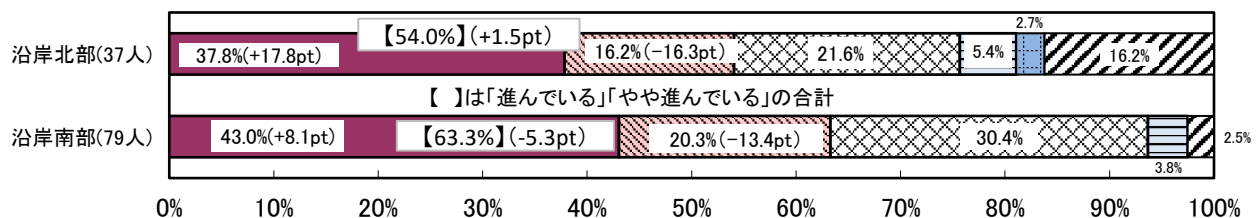


② 直近6ヶ月間(おおむね7月から12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆住環境については高台への移転新築、災害公営住宅への入居等により、生活面は落ち着いたと感じる。高齢者及び独り暮らし世帯に対するコミュニティサポートは引き続き必要と考える。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆復興事業が軒並み完了しているようなので、今の状態が街の完成形と思っていた。それを踏まえて被災者の生活の回復度は今がピークで、これ以上上がることはないと思う。災害公営住宅も家賃は上がっているようだし、食料品店も少なく、買物に行くには交通費がかかる。人口も減る一方で、地場産業の要である魚介類が全く獲れず雇用にも影響している。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆「震災があったから」という理由で「生活が大変」という声は聞かなくなった。仮設住宅がすべて撤去された事は気持ち的にも大きいと思う。(39歳以下、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆普通の暮らしを取り戻したく一生懸命に踏ん張って来た。立ち止まり、気が付いたら10年の月日が過ぎていた。多くの皆さんと共に良く頑張り通したと思う。今の生活を町民の皆様は安心、安全の気持ちで日々明るく暮らしている様子が見て感じられる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆被災前に比べて、ライフラインも回復してきていると思う。三陸沿岸道路も全部開通となり、ますます、東北の経済力も回復することを願っている。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</p> <p>◆三陸復興道路が全面開通した。地域での高齢者のサロン等(カフェや百歳体操等)の活動が活発になったように思う。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆震災から10年以上もたち、住宅環境(住宅再建・公営住宅等入居)もなりわい(特に漁業)も現在は元に戻っていると思うが、住宅は高齢者が多く、亡くなる方もいたりして、公営住宅は空いたところもあるようだ。また、特に漁業は魚貝類が獲れない自然環境になっているようで収入減となっているようだ。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p>
<p>「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆仮設住宅の撤去も完了し、各々自力再建も進み回復へ一步一步前進している。一方で空き地や売り地の空間も多々見られ、見通しが立たない状況も目につく。(50歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆衣食住等、ハード面は回復しているが、心の回復がまだまだの様子の方々が見受けられる。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</p> <p>◆様々な形で、再建は着実に進んでいると思う。また、この地でなければ体験・体感できないイベントや、施設の拡充により交流人口は増えていると感じるため。とはいえ、中心部もまだまだ空き地が目立ち、今後の不安は拭えないと思う。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆三陸道の全線開通などハード面の復興においては回復したと言っていいと思うが、被災者の方の心の回復については、人によって回復された方もいれば、まだ時間がかかる人もいる。そういう方へのケアをどうしていくのが重要だと思う。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆災害公営住宅の入居が完了し、自己再建の住宅も建ち揃い、住まいの確保は出来たように見受けられる。一方、災害公営住宅からの退去者が出始めており、空室が目立ち始めたところがある。地区の人口は震災前の6割まで減少し、高齢化と少子化の流れは留まることはなく、限界集落に近づきつつある。雇用の場は回復しておらず、地区の基幹産業である漁業も水揚げの不振から、難しい経営を余儀なくされ、商工業においても、人口減少と新型コロナ禍の影響により、業績が悪化し、先の見えない状況が続いている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆それぞれ再建は済んでいるが、震災前とは全く異なるコミュニティの中で暮らしている。高齢者にとっては特に生活の回復とは遠い状況にあると思う。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆コロナの影響で、アルバイト・パート先がなくなったり、コミュニティ再生のための集いがなくなっている状況。人とのつながりは薄く感じられる。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>
<p>「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆新型コロナウイルスの影響で、新しいコミュニティ形成が進まない。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については、「回復した」が18.9%と、前回(17.6%)を1.3ポイント上回った。また、「回復した」「やや回復した」の合計は50.9%と、前回(49.6%)を1.3ポイント上回った。

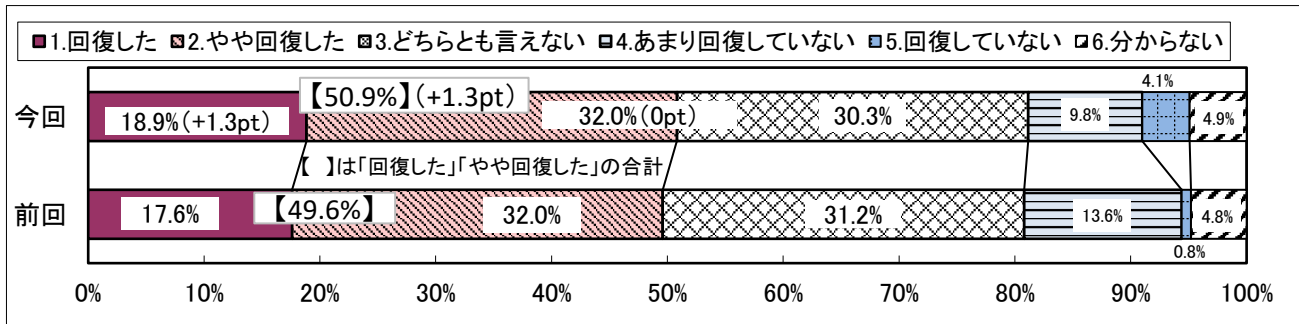
○地域別では、「回復した」が、沿岸北部で17.9%、沿岸南部は19.3%と、それぞれ前回(北部17.5% 南部17.6%)を上回った。「回復した」「やや回復した」の合計は、沿岸北部で51.2%と、前回(60.0%)を下回った一方、沿岸南部では50.6%と、前回(44.7%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の「回復した」「やや回復した」の合計差は0.6ポイントと、前回(15.3ポイント)から大きく縮小した。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んだ」が17.4%と、前回(12.1%)を5.3ポイント上回ったが、「進んだ」「やや進んだ」の合計は34.8%と、前回(35.5%)を0.7ポイント下回った。

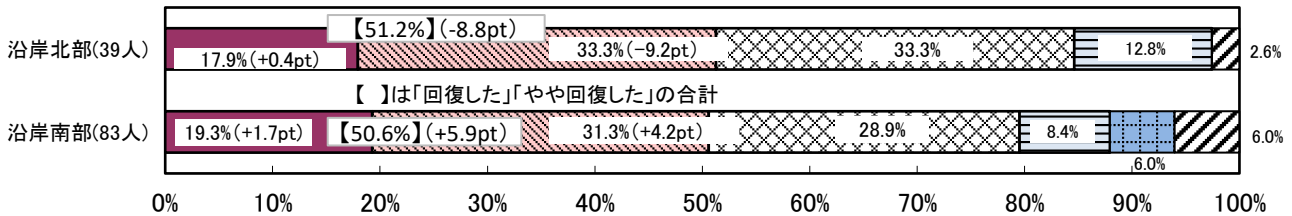
復興道路等の全線開通による物流や人的交流、新たに開発された商品や特産品への期待の声がある一方で、新型コロナウイルス感染症による飲食店や商業施設、水産業、観光業等での需要の落ち込みや主要魚種の漁獲量減少、燃料高騰など、厳しい地域経済の状況を指摘する声があった。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

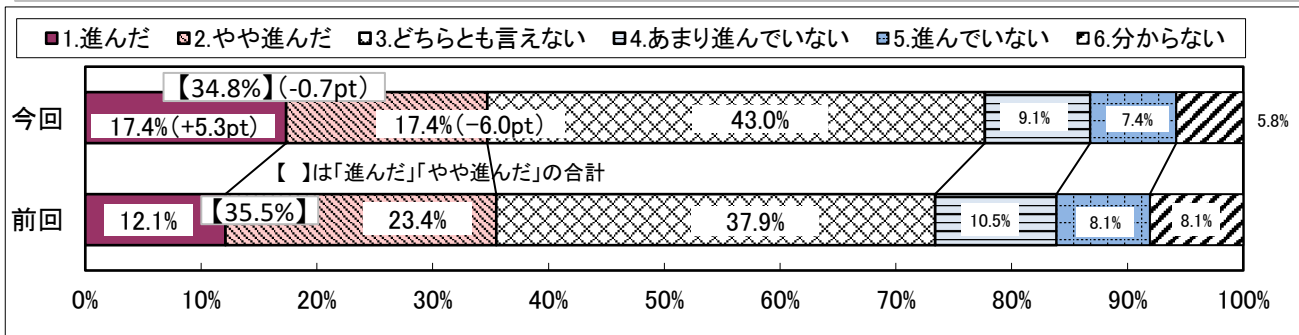


地域別

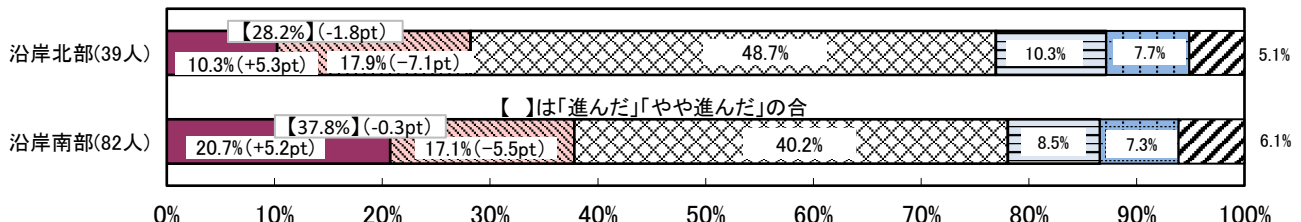


② 直近6ヶ月間(おおむね7月から12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<p>◆地域経済は被災前と比べて回復していると思う。しかし、コロナの影響で需要が落ち込み打撃を受けている。例えば飲食店もそうだし、養殖漁業(エゾイシカゲ貝など高級貝ほど受けている)、観光業はかなりの影響を受けている。(60歳以上, 地域団体・郵便局関連, 沿岸南部)</p> <p>◆色んな支援があり、自分も組織のリーダーとして頑張ってきたが、後継者作りが上手く行くすべを見い出せない。若い力を育てたい!(60歳以上, 産業・経済・雇用関連, 沿岸南部)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<p>◆震災前の公共施設等ハード面の復興は終息。交流人口拡大を目指し観光関連業も前向きに考動してきたが間もなく2年度なるコロナの影響は予想以上に大きい。地域経済一層の回復には企業誘致等による雇用創出、定住者増加に向けた対策が急務。(50歳代, 産業・経済・雇用関連, 沿岸南部)</p> <p>◆生産者や経営者の方々の工夫やアイデアから新しい商品や特産品も生まれており、地域経済を発展させていこうという雰囲気を感じる。ただし、コロナの影響は少なからずあり、更なる努力は必要となってくるものと思われる。(50歳代, 教育・福祉施設関連, 沿岸南部)</p> <p>◆土木作業の方が離れたので、結果的に人口が減って経済面1つはマイナスになっているが、被災前よりは良いと思う。(40歳代, 地域団体・郵便局関連, 沿岸南部)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆震災の影響はある程度薄くなっていると思うが、地域の経済の抱える根本的な課題が表面化して、こちらの方が根深い。(50歳代, 教育・福祉施設関連, 沿岸南部)</p> <p>◆震災による借入金負担が重しとなっている事業主はまだまだ散見される。6カ月前と状況はかわらない。ただし、新型コロナウイルスの影響により回復が遅れた、もしくは財務基盤が悪化した事業主はある。(50歳代, 産業・経済・雇用関連, 沿岸南部)</p> <p>◆震災・台風被害からの復興・復旧は概ねなされているが、三陸縦貫道の完工に加え公共工事の減退により建設業界中心に厳しさが増していくものと思われる。(40歳代, 産業・経済・雇用関連, 沿岸北部)</p> <p>◆水産業では、サンマやサケの不漁、新型コロナウイルスの影響による中心市街地の商業施設の閉店、ガソリンや食料品の値上げ等、被災者を取り巻く経済環境は厳しいものがあると感じる。(60歳以上, 産業・経済・雇用関連, 沿岸南部)</p> <p>◆震災による経済の回復は進んでいる。しかし、新型コロナウイルスによる影響が各方面に及んでいて、経済は落ち込んでいる。燃油の高騰、資材の高騰、不足など、今後も予断を許さない状況。(50歳代, 地域団体・郵便局関連, 沿岸南部)</p> <p>◆復興道路関連事業によって、地域経済にとって物流や人的交流に期待するところが大きい反面、工事関係に伴う今までの経済効果を考え併せると一抹の不安もある。以前に比較すれば回復した感が強い。この事業の完成を地域経済の向上に向けていかに取り組むべきか、先の見通しが示されないことへの不安はある。(50歳代, 教育・福祉施設関連, 沿岸北部)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆主に水産業は、本来は今時期に水揚げのあるサケ・アワビが大不漁で、漁家及び加工業者は大変苦しんでいる。(39歳以下, 産業・経済・雇用関連, 沿岸北部)</p> <p>◆インフラ整備等進んでいるが、サケ漁の不振、林業の後継者不足、人口の流出等、課題が山積している。地域の特性上、企業の誘致等ものぞめない。さらに、コロナが追いつちをかけている。(40歳代, 教育・福祉施設関連, 沿岸北部)</p>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆コロナの影響もあり、市内中心部のデパートが閉店となったり、商店街でも閉店するお店もあったりで、非常に厳しい状況であると思われる。また、サンマやサケも不漁。道路は整備されているが、その分、市内で買い物する人が減り、他の市や県に流れてしまっている。(40歳代, 教育・福祉施設関連, 沿岸南部)</p>

注1) 「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3) 掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など
 教育・福祉施設関連 : 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など
 産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○安全なまちづくりの達成度については、「達成した」「やや達成した」の合計が77.5%と、前回(76.8%)を0.7ポイント上回った。また、「あまり達成していない」「達成していない」の合計は3.3%と前回(7.2%)を3.9ポイント下回った。

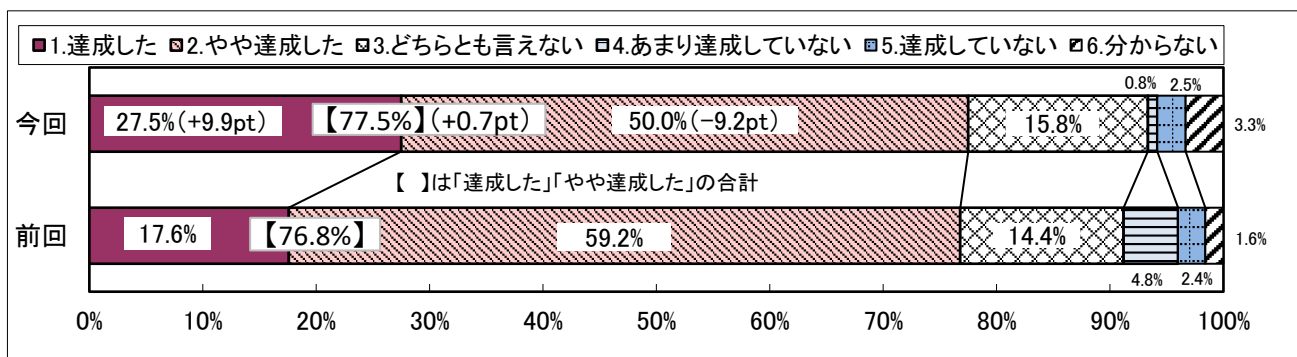
○地域別では、「達成した」「やや達成した」の合計は、沿岸北部で74.4%と前回(75.0%)を下回り、沿岸南部では79.0%と前回(77.6%)を上回った。また、沿岸北部と沿岸南部の差は4.6ポイントと、前回(2.6ポイント)から拡大した。

○直近6ヶ月の進捗状況を見ると、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が73.7%と、前回(68.5%)を5.2ポイント上回った。また、「あまり進んでいない」「進んでいない」の合計は5.1%と、前回(8.9%)を3.8ポイント下回った。

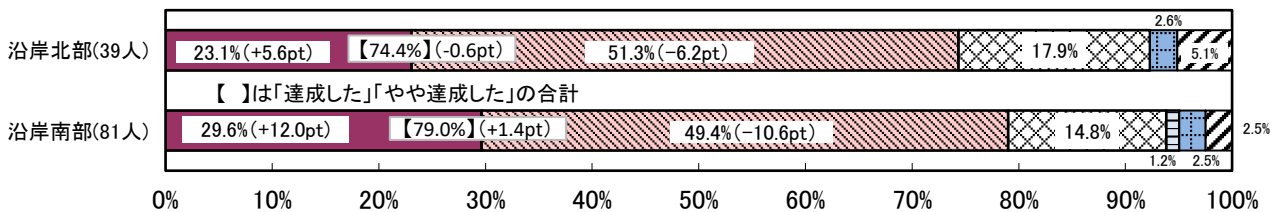
防潮堤や復興道路などハード面が整備されたことや地域住民の組織づくりを評価する声がある一方で、震災から10年以上が経過したことによる防災意識の風化防止や、今後の災害に強いまちづくりの取組の必要性を指摘する声が多かった。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じ

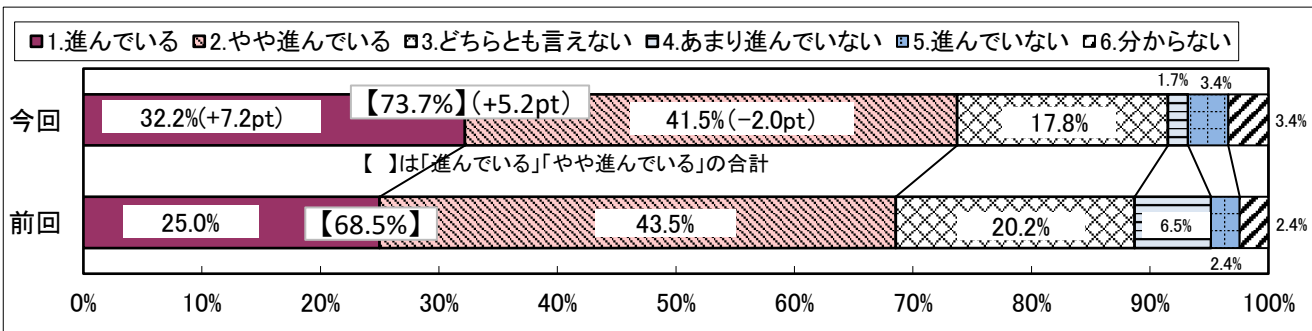


地域別

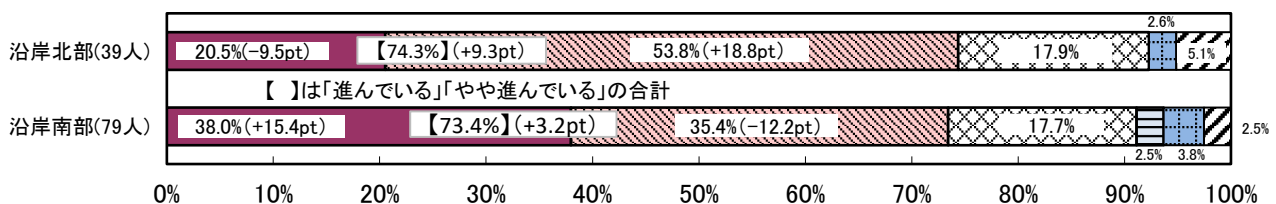


② 直近6ヶ月間(おおむね7月から12月まで)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(6ヶ月程度)災害に強い安全なまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



* () 内は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する回答理由など[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「1.達成した」 又は 「1.進んでいる」 の理由</p>	<p>◆災害(津波)に強い安全な町にはなった(被災前は川面と宅地面との差は1.5m～2.0m位だったが現在地は10.5mとなったこと、気仙川河口に水門が完成したこと、遊水池が出来た事のため万一の時の避難時のときに時間を稼ぐことができるようになったことから)(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆我が町は近隣市町村より遥かに早く安全な町作りに取り組まれたと思っている。嵩上げや山を平らにし住宅地としての土地を造成し、町民はそれぞれ見合った土地に居住し、安全な生活が出来る。ただ、防波堤が今盛んに工事中であり、災害が来ないうちに早く完了する事を願っている。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆地区によって進捗状況が異なるが、当地区・町内は上手くいっている様に思えるが、皆が気持ちの温度差が無いような、防災づくりをしたい！一防災士を多く作り出したい！(60歳以上、産業・経済・雇用関連、沿岸南部)</p> <p>◆三陸道の全線開通は広域の医療体制の拡充が図られている。しかし、地域の医療は医師不足等の影響から専門医がおらず、盛岡など内陸方面へ行かなければならない。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆ハード面では達成したと思う。今後の住民の防災意識の維持が課題。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆市がリードして、地域の住民が支え合う組織づくりが進められている。人と人のつながりは安全なまちづくりに通じているので、組織の今後の取組に期待したい。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p>
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆吉里吉里の防潮堤もだいぶ出来上がってきた。来年の夏には海開きができるかと楽しみである。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆道路整備や、堤防の整備は進んでいる。人の心の防災意識を常に意識して生活をしようというソフト面の取り組みは少なく感じている。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部)</p> <p>◆自治体主導による防災マップ等の整備、避難路やルートの整備が進められているが、コミュニティ単位を主体とする防災に向けた取組もまた重要になっていくものと思われる。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆三陸沿岸道路の全線開通、防潮堤の完成など、完了したと言える。工事に携わった方々には大変感謝している。(39歳以下、産業・経済・雇用関連、沿岸北部)</p> <p>◆防波堤や堤防の工事が進んでいるのが目に見えている。まだ途中だが、今後も進むものと思われる。災害への住民意識を高めるなど、ソフト面でもまちづくりを行っている。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆「災害に強い安全なまち」はできつつあると思う。震災を知らない子どもたちが大半を占めるようになった今、やはり”知”ことを大事にしていきたい。そして「支えられる人(まち)」から「支える人(まち)」へと変わってほしいと思う。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆ハード面においては、防潮堤や復興道路など、かなり整備された。ここからは気持ちの風化をいかに抑えて将来まで災害に強い街を維持していけるかが課題。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p> <p>◆当地域は先の震災では被害が少なく済んだ関係からか、住民の間ではすでに過去のものとなっている感じがして不安になる。被災した方にとっては10年も昨日も変わらない日常だと思うが、直接関係のない住民に取っては10年一昔と思う。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部)</p> <p>◆千島海溝地震や、日本海溝地震に対する「津波シミュレーション」の公開や具体的な浸水区域が示されていないため、ソフト面の対策が不足している。(60歳以上、地域団体・郵便局関連、沿岸北部)</p>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆ハード面の整備は進んだが、ソフト面の取組みは進んでいなく、縦割りで横の連携も不十分のため、中途半端。また、津波にフォーカスしすぎていて、それ以外の災害の意識が低い。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部)</p>

注1)「理由(要旨)」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)「区分」別の「理由(要旨)」数は、区分の回答比率におおむね準じています。

注3)掲載内容は、同旨意見の多かった内容や回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連: 応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者など

教育・福祉施設関連: 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者など

産業・経済・雇用関連: 漁業・農業従事者、就業支援員等雇用支援機関の関係者、金融機関の関係者など

いわて復興ウォッチャー・動向判断指数(DI)の推移

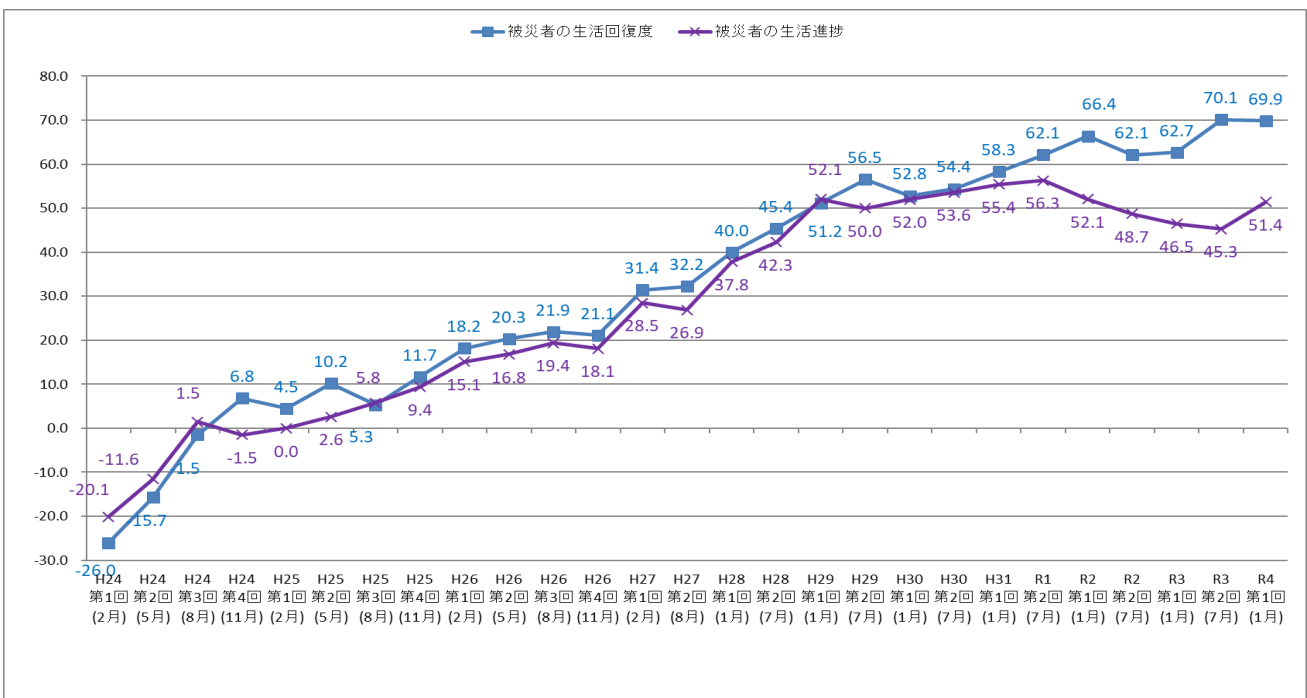
<動向判断指数(DI)>

掲載する折れ線グラフは、各回の動向判断指数(DI)について時系列にその推移を表わしたものである。動向判断指数(DI)は、「回復した」の回答数がA、「やや回復した」の回答数がB、以下「どちらともいえない」がC、「あまり回復していない」がD、「回復していない」がEのとき、次の式で算出する。

$$\text{動向判断指数(DI)} = \{ (A \times 2 + B) - (D + E \times 2) \} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

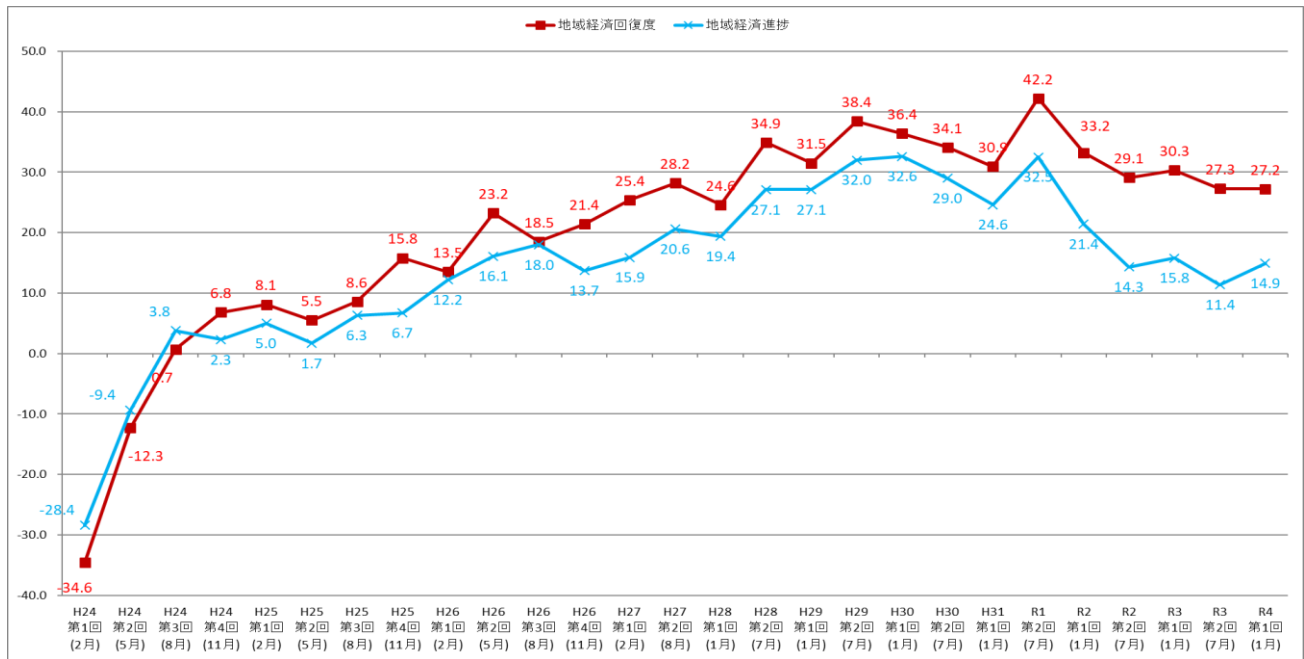
(注) 上記「回復した」は、設問によって「達成した」「進んでいる」等となる(他の選択肢についても同様)。

【被災者の生活】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



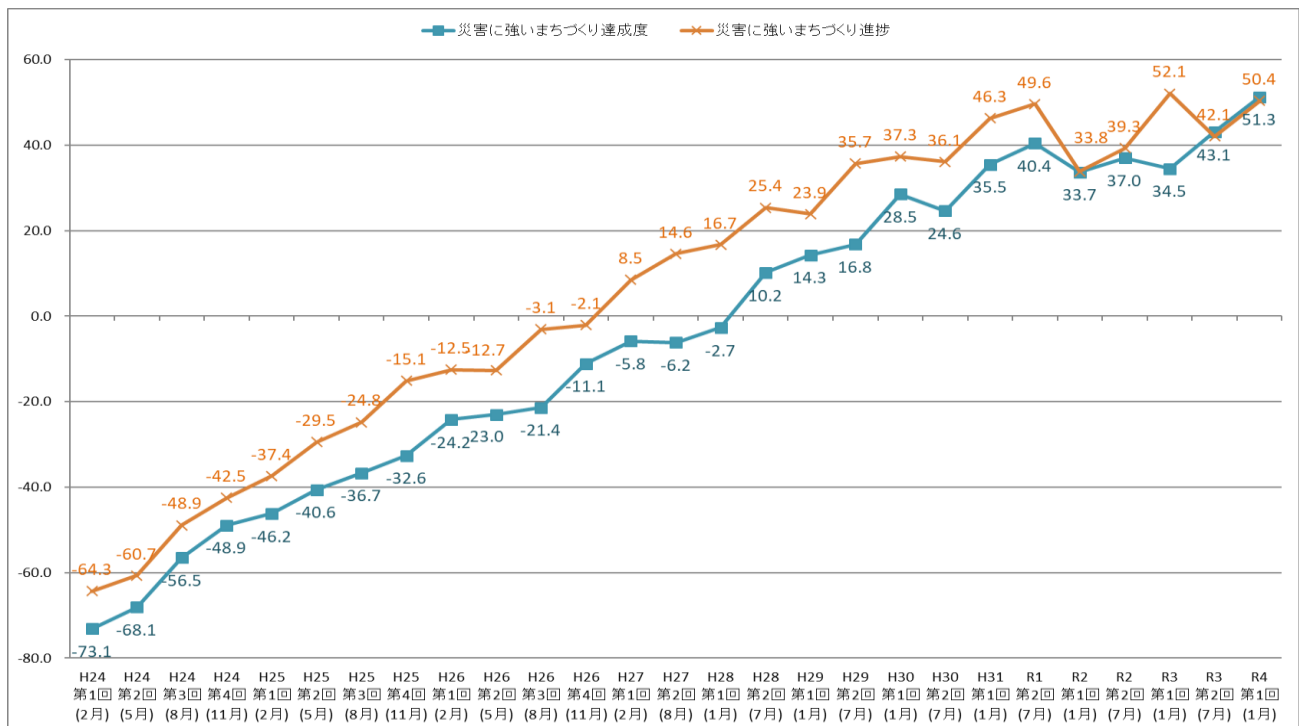
※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR3年7月～R3年12月)を指す。

【地域経済】回復度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR3年7月～R3年12月)を指す。

【災害に強い安全なまちづくり】達成度と前回調査(※)からの進捗状況に対する実感



※H27第1回調査までは直近3ヶ月間、H27第2回調査以降は直近6ヶ月(今回であれば、おおむねR3年7月～R3年12月)を指す。

令和4年【第1回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告

発行

令和4年2月15日

岩手県

復興防災部 復興推進課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話 019-629-6935

ホームページ：いわて復興ウォッチャー調査について

<https://www.pref.iwate.jp/shinsaifukkou/fukkounougoki/chousa/watcher/1002363>